

日本人大学生を対象とした使用頻度に基づく 日本語語彙サイズテストの開発 —50000語レベルまでの測定の試み—

田島 ますみ (中央学院大学)

佐藤 尚子 (千葉大学)

橋本 美香 (川崎医科大学)

松下 達彦 (東京大学)

笹尾 洋介 (豊橋技術科学大学)

日本人大学生の語彙量測定を試み

2014年度

日本語を読むための語彙量テスト(松下, 2012)

- ・ 非母語話者対象
- ・ 日本語を読むためのデータベースで
使用頻度順位15000語まで



日本語語彙サイズテスト

- ・ 母語話者対象
- ・ 使用頻度順位30000語まで

日本語語彙サイズテストの利点

- 語彙力の基本である語彙量を簡便なテストで数値として提示できる。
- 試験問題に使う語の選定を書き言葉コーパスにおける使用頻度に基づいて行う。
 - 語彙のレベルに客観的な基準を提示できる。
- 非母語話者対象のテストをもとに開発
 - 母語話者か非母語話者かの違いに関わらず実施できる。
グローバル化、言語的背景の多様化への対応
帰国子女、来日時期、在籍した学校、
家庭での使用言語・・・
従来の日本人学生／留学生という2分類では不十分

2014年度の結果

- 30000語レベルでは母語話者には簡単すぎた。
- 高得点者が多い中でも少数の低得点者が存在した。
- 特に低い者の推計既知語数は20000語を切った。
目安としては非母語話者対象の日本語能力試験N1と同レベル
- 低得点者は特定の大学に存在した。
実施した3大学のうち低得点者はほぼ1大学に集中した。
低得点者がいない大学もあった。

2015年度版テスト

- 30000語レベルでは十分ではない。



林四郎(1971)

「日本人の成人の理解語彙量は大体四万語程度であろうと推測される」

NTTコミュニケーション科学基礎研究所語彙数推定テスト
大学生レベル:45000語～50000語



- 50000語レベルで作成
使用頻度順に400語に1語を抽出し、計125問
ターゲット語の意味を問う4肢選択

問題例

[6000 語レベル]

礼儀: あの人は礼儀を知らない。

- 1) おおよその内容をまとめたもの
- 2) 人間関係を守るための行動様式
- 3) ものを大切に思う気持ち
- 4) 理論とは異なる現場の仕事

* 実際の問題とは異なる

実施概要

- 2015年4月～5月
- 3大学の日本語母語話者の学生
- 実施時間:40分
- 問題の順番が異なる二つのバージョンA、B
問題の順番が得点結果に影響しないことを確かめるため
↓
バージョンによる差なし
↓
得点などのデータ使用に関する同意が得られた373名分を
分析対象とする。

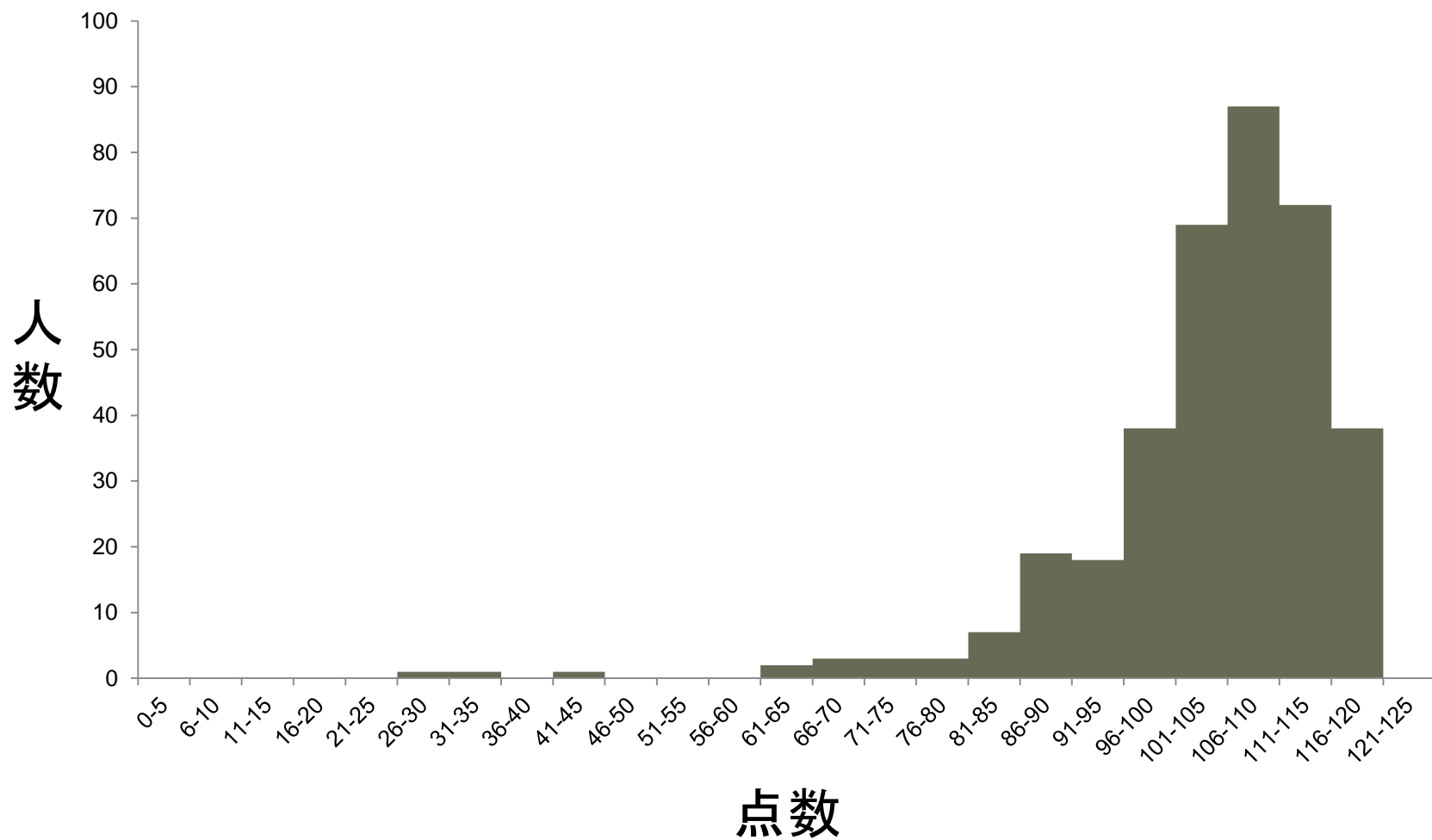
結果

- ラッシュ分析
解答パターンに問題のある11名を除く。
- 362名分のデータの結果

	平均	標準偏差	最大	最小
得点(素点)	104.3	11.9	120	30
能力推定値	2.55	0.88	4.66	-1.61

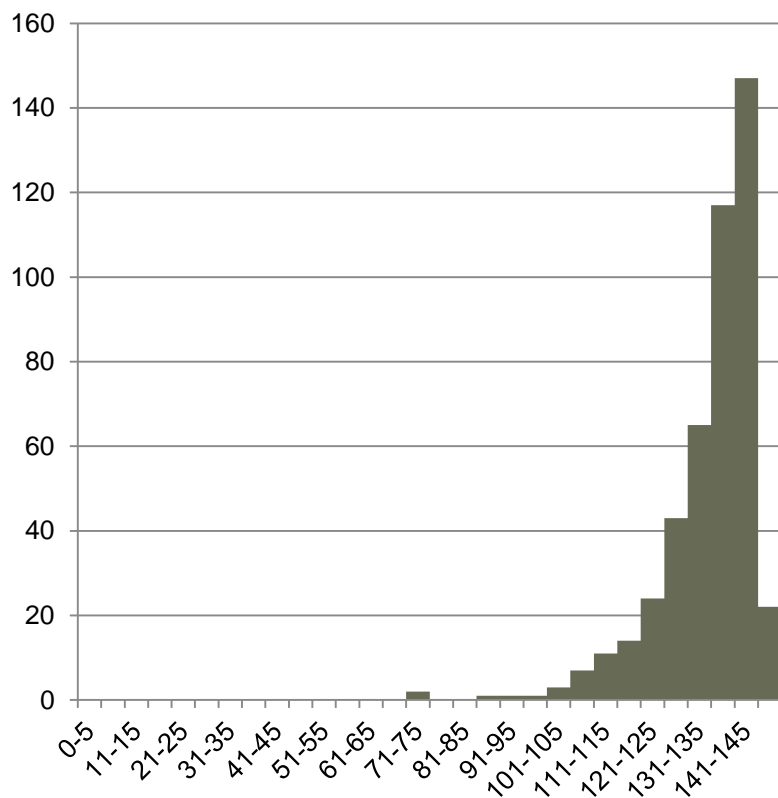
(125点満点)

結果(人数分布)

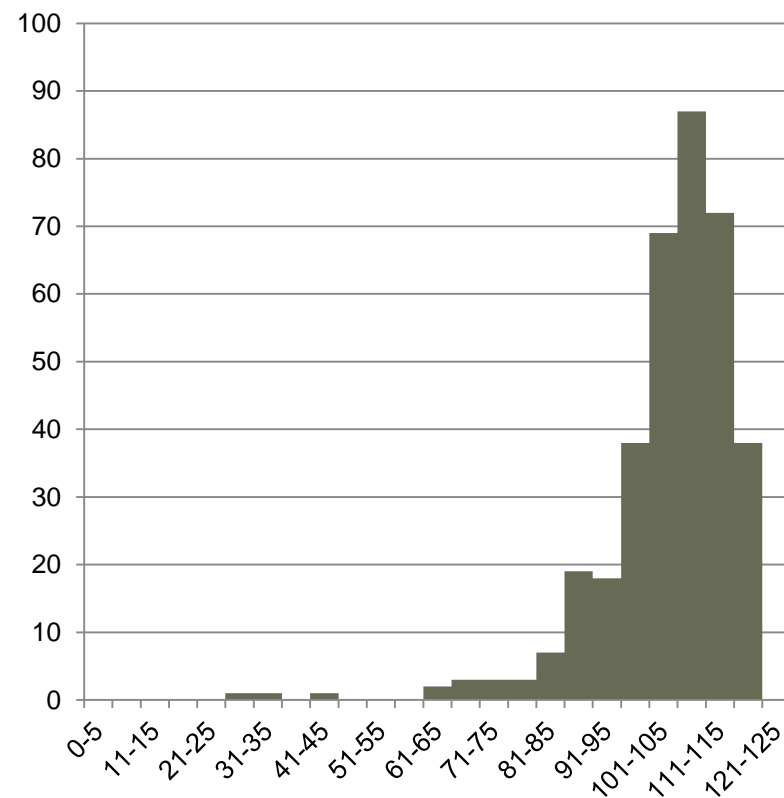


結果(比較1)

30000語レベル(2014年度)



50000語レベル(2015年度)



結果(比較2)

推計語数 (語)	人数(名)	
	30K test	50K test
6001 – 10000		
10001 – 14000		2
14001 – 18000	3	1
18001 – 22000	12	0
22001 – 26000	92	2
26001 - 30000	351	6
30001 - 34000		10
34001 – 38000		37
38001 - 42000		107
42001 - 46000		159
46001 - 50000		38

結果のまとめと考察

- 50000語レベルのテストも母語話者には簡単すぎた。
30000語のテスト結果と比べて若干得点分布範囲が広がったものの、高得点者が多い。



問題形式？

意味を知っているかどうかを問う。

紛らわしい選択肢は入れない。

- 母語話者の場合
低頻度の語彙であっても意味を選択肢で問われれば正答できる確率が高い。
日本語は漢字からの類推も可能。

まとめと今後の課題

- 語彙量サイズテストは語彙量に深刻な問題がある学生(リメディアル教育のターゲット学生)を特定するには有効。
- 個人差を評価する目的のテストになるかは「？」
- 50000語レベル以上にあげれば人数分布は分散する可能性がある。
 - その方向でのテスト開発
 - 分布の形が正規分布に近づき、データが蓄積されればその最頻値を大学生の一般的な語彙量と提示できるのではないか。
- 発達段階に沿った語彙量調査
 - どの段階でどの程度の語彙を獲得しているのか？
 - 大学での学び(抽象的な思考)に堪える語彙量は？

まとめと今後の課題2

- 日本人大学生の語彙力の問題
 - 一般語彙 < 学術語彙 ?
 - 学術語彙のテスト開発
 - 理解語彙 < 使用語彙 ?
 - 使用語彙は簡便に測れるか？
- 2014年度版の結果
 - 下位層が正答できない語
 - 学術・専門語彙に近いもの
 - 時事問題・社会的な用語
 - 歴史小説など文芸書に出てくる語彙
 - 読書量の少なさ、社会への関心の低さ

参考文献

- 1) 田島ますみ, 佐藤尚子, 橋本美香, 松下達彦: 日本人大学生の語彙力の測定(語彙サイズテストの開発と実施), 日本リメディアル教育学会第10回全国大会予稿集, 2014, p.48-49.
- 2) 松下達彦 日本語を読むための語彙データベース Ver.1.1:
<http://tatsuma2010.web.fc2.com/>(2015年6月21日参照)
- 3) 林四郎: 語彙調査と基本語彙, 国立国語研究所報告39電子計算機による国語研究Ⅲ, 1971, p.1-35.
- 4) NTTコミュニケーション科学基礎研究所 語彙数推定テスト:
<http://www.kecl.ntt.co.jp/icl/lirg/resources/goitokusei/goi-test.html>(2015年6月29日参照)
- 5) 松浦年男: 大学初年次の学生に対する日本語語彙力調査の試行, 北星学園大学文学部北星論集, 2015, 52巻2号, p.53-61.

本研究は、科学研究費補助金基盤研究(C)「グローバル化に向けた日本語の語彙テスト開発」(課題番号15K02631, 平成27年度～29年度, 研究代表者:佐藤尚子)の助成を受けた。